

ふれあい

NO. 241

2013. 7. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会
大阪市天王寺区東高津町 12-10
大阪市立社会福祉センターB1F
発行責任者 笹野井 庸夫
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623
<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

事業所協議会職員研修に参加して

ふりーすぺーすSUN 仲尾 友佳

7月5日に大阪市立社会福祉センターにて、事業所協議会が主催で大阪府立大学の三田優子氏を講師としてお招きし、テーマを「支援のきほんの『き』とは？」として職員研修が行われました。当日は10カ所の事業所から46名のスタッフの参加がありました。

最初に障がいのある人の人数の割合をクイズ形式で質問されました。推計人口の17人～18人に1人という割合だと言われていますが、申請をされていない人もいますので実際は推計の人数よりも多いとのこと。そのような現状であればサービスを利用している人は少ないということになり、家族が介護している人も多いようです。



次に、支援者である私たちが利用者様という設定で「私（支援員）」の問題を抽出し、支援員が会議をしたという場合を考えていくことで自分が支援される側に立ち個々に考えていくことを行いました。発表では浪費や娯楽についての意見が出て、利用者様なら注意されるが職員の立場なら言われないことに対しての疑問や利用者様を交えず会議が開かれた時の利用者様の気持ち、問題とされている事柄でも理由があるということなどを改めて考えることができました。この質問では問題抽出ではなく、その人の考え・行動の理由

を知ることが大事であることを学びました。その理由を知ることで何かを伝えたいサインに気づくことができるかもしれません。

そして、利用者様の「声」を聴くことの重要性に繋がってきます。次の事項では、この利用者様の「声」を聴くことの重要性についての講義でした。コミュニケーションの基本「きく」ということについて学びました。他者の言葉に関心をもてない人ではないと利用者様の言葉を傾聴できないこと、傾聴できない職員の支援は訊けないということを知りました。また、人との会話で深化する「きく」を心がけ支援に臨む必要があることを感じました。

次にコミュニケーションの可能性と限界について考えていきました。もしも、2人の人に同じことを言っても各人でとらえ方が違うので伝えたいつもりでも伝わっていないこともあります。自分の伝えたい事が伝わっていないからコミュニケーションがとれないと思うのではなく、表情やしぐさ等を見て可能性を導くことが重要となることも学びました。当事者の方が支援に求めることは、社会性であり社会人とのマナーは勿論の事、もう少し深くとらえる豊かな生活を送っているか、又人間として絶えず成長についていけるように学んでいるかそれらの姿勢が支援員としても大切なことであると思いました。

私たち支援員は、利用者様のことを第一に考え自分らしい暮らしができる自己実現をはかる為の土台の部分を支援していくことが必要だと感じました。利用者様の思いや行動のサインに気づき、何がしたいのかを利用者様と共に考えていく寄り添った支援をしていくことが大切なことだと思います。

会員向け学習会「震災に学ぶ」に参加して

都島区 大野 千津子

5月16日と6月20日の2回にわたり、「障がいのある人にとって災害時には普段以上にハンディに